

ウェアラブルカメラ導入による現場内作業の「見える化」



カメラを持参し、現場内をリアルタイムで撮影し現場内を「見える化」リアルタイムでの撮影と同時に上長者が映像を視聴することで、進行中の作業に対してリアルタイムな指導・教育が行える。また文面や口頭では伝わりづらい説明も「見える化」することで、より実践的な教育が可能となる。

デジタルデバイスを用いた朝礼・昼礼の「見える化」



工事敷地が狭く、朝礼・昼礼広場が確保できない為、デジタルサイネージを活用し休憩所で朝礼・昼礼を実施している。

また、朝礼・昼礼時以外は常時現場ルール等を音声付きで流すことにより、安全意識の向上を図っている。

また朝礼前に配置に付くタワークレーンオペレーターはデジタルデバイスにて朝礼・昼礼の内容を確認することができ、周知事項が全作業に確実に伝わる工夫をしている。